

<b>Title</b>	『首長と地方議会の新たな関係』： 地域主権と自治体のあり方を問う： 実施結果： アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：2010 年度第 1 回 聖学院大学地方自治シンポジウム)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-2：34-37
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2421">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2421</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 総合研究所 News

2010 年度

## 第 1 回聖学院大学地方自治シンポジウム 『首長と地方議会の新たな関係』 —地域主権と自治体のあり方を問う— 実施結果—アンケート集計結果の概要—

昨年の政権交代による、地方分権を加速し地域主権の国をつくる政権公約も、中央地方関係の見直しにとどまり、中央集権体制に慣れた自治体には依然国頼みの体質がある。地方議会の役割が増大しているにもかかわらず、従来型の首長依存の議会運営が続いている。

地域主権とは何か、期待される自治体の役割は何か、住民に求められるものは何か。自治体の二つの政治機関である首長と議会について、あるべき姿を議論してみたい。地方議員の果たすべき役割、議会基本条例の必要性、住民に開かれた議会改革など、多角的な観点から議論を展開する。

日時 2010年4月28日(水)17:30～20:30

場所 大宮ソニックシティ 小ホール

### 【プログラム】

主催者挨拶 阿久戸光晴（聖学院大学学長）

基調講演 1 「地域主権の国づくりと地方政治の役割」

橋本大二郎（前高知県知事）

基調講演 2 「日本政治の展望とその課題」

小林良彰（慶應義塾大学教授）

パネルディスカッション

「首長と地方議会の新たな関係」

パネリスト

清水勇人（さいたま市長）

橋本大二郎（上掲）

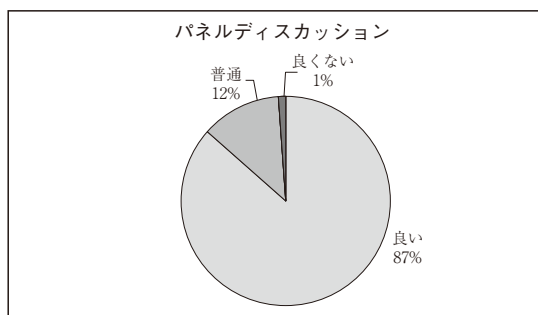
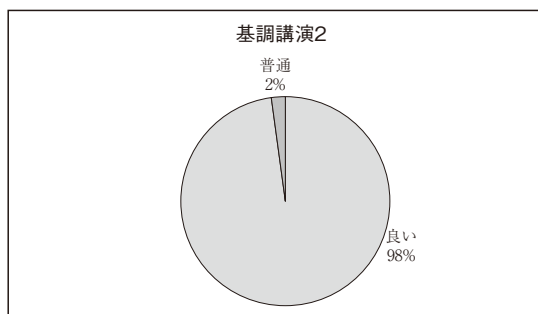
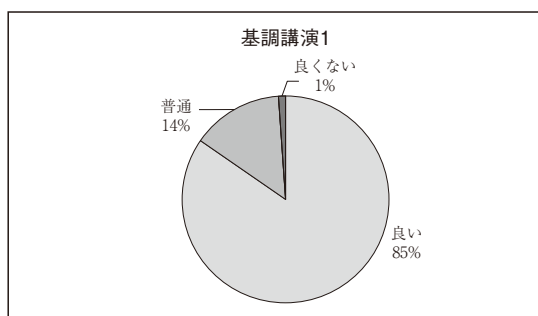
小林良彰（上掲）

コーディネーター

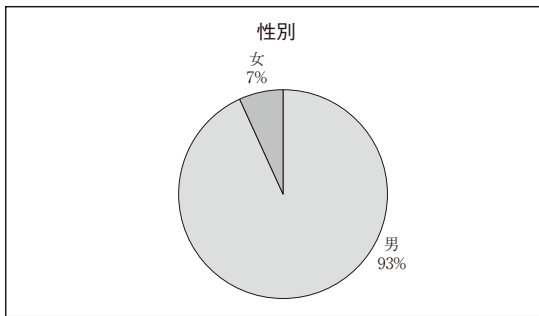
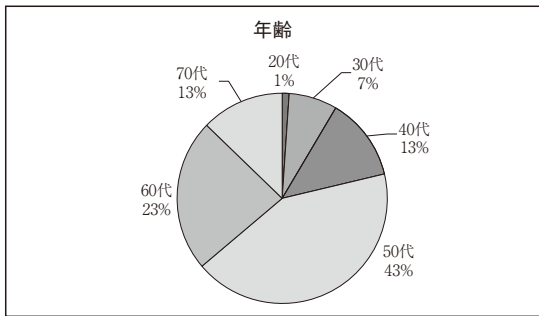
佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授、中央大学教授）

### 【結果の概要】

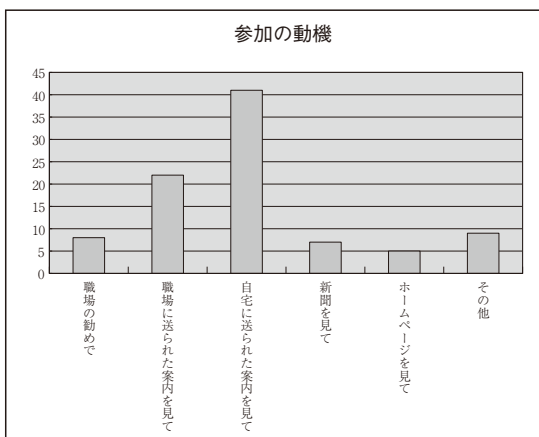
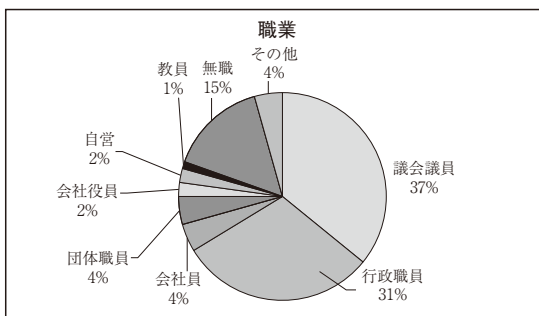
- ・参加者の人数は170名。内、アンケート回答者は94名であった。
- ・基調講演 1 について「良い」が85%、基調講演 2 について「良い」が98%と高い評価を得た。パネルディスカッションについても「良い」が87%と高い評価だった。
- ・自由意見として、「参考になった」「良い企画だった」「次も期待する」などの意見があった。



- ・回答者の年齢は、50代が最も多く43%、次いで60代23%、40代・70代13%となった。性別は、男性が93%と大方を占めた。



・職業別では、「議会議員」と「行政職員」で68%を占めた。



・参加の動機は、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「職場に送られた案内を見て」だった。

「その他」の内容として、「友人の勧め」「知人の案内」「同僚の勧め」「経済同友会からの案内」

など。

## 自由意見

・地方分権の推進と都道府県行政への課題として、以下の三点についてどう位置づけるべきか等協議をお願いします。

1. 国との関係
2. 市町村との関係
3. 大都市制度と都道府県の存在理由など関係性

・地方議会をただ叩くのではなく、どうあったらいいのか、真剣な議論で、聞き応えのある良いシンポジウムでした。ありがとうございました。小林様へ。地方自治体議員＝県議＋政令市議ではないので、ぜひ一般市町村議にもアンケートなどアプローチをしていただければ、うれしく思います。

・首長の立場と議会（議員）の立場がある程度理解できて、大変参考になりました、最近の地球環境及び人口増加を考えると、国や地方の政治よりも世界政府の樹立を急がねばならないのではないかと感じます。国連、又は世界政府のシンポジウムを期待します。

・小林先生の説明とても理解しやすく勉強になりました。もっと小林教授の「本」などで詳しく調べたいと思います。

・パネルディスカッションの時間がもう少しあってもいい。

会場とのQ&Aの時間がほしい。

・「首長と議会の新たな関係」というテーマ設定であるが、知事、市長は出ても、議会関係者を



橋本大二郎 前高知県知事



小林良彰 慶應義塾大学教授

パネリストによばなかった事に課題が残る。

- ・パネリストにとって地方議会のあり方については、参加者には議員がいると思われる中で、コメントするのはかなり辛いのではないか。
  - ・パネルディスカッションは講演を踏まえた「本音」の話を聞くことができ参考となった。基調講演よりもパネルディスカッションを充実させることが必要かもしれないと考えます。
  - ・パネルディスカッションは従来よりの課題がテーマとなっていて、新しさを感じられなかった。基調講演は分りやすい話で良かった。
  - ・中央がガタついて、地方が活気付いている時代ですので、とても興味深い集いでした。どうもありがとうございました。
  - ・地域主権において、各自治体運営の力量により、大きく変化していくため、様々な努力が必要である。その点での首長と議員の質の向上が必要となってくる。
  - ・議会（議員）の予算を伴う条例発議は首長は理解しても、執行部、幹部が納得しないケースが多い。基本的な考え方を変えるような法制度が必要ではないか。（議会法制部門強化を前提にする。）
- 議員の資質、能力（立法能力）を高める議会制度強化も必要か。
- ・自立するための自治体独自の基準づくりが不可欠ですが、職員は責任が発生するのでつくりたがらないのが現状です。条例は法を超えられません。その点も考えていきたい。
  - ・小林先生の講義はよかった。わかりやすい。今後も継続して、公開講座を開かれることを強く

希望する。パネルディスカッション、こうした議論はもっと聞きたいので、第2回、第3回を希望する。

- ・地方議会をテーマに取り上げることはあまり多くない。その意味では、内容のあるシンポジウムであった。すでに地方議会の改革に取り組んでいる議会もある。そうした事例や、関係者をパネリストに入れていただければもっとリアルな議論になっているのではないか。真の二代表制を機能させるために、これからもテーマとして取り上げ続けてほしい。
- ・地方分権は不可欠な傾向だと思うし、より一層の推進が求められると考えている。やはり、身近な事柄は地域で決めるという、基礎自治体を基軸とした補充的な原理が貫かれる必要があるだろう。ただ、その際には、自由な裁量を確保しつつ、規制を緩和しながらも、ナショナルミニマムをどう保障していくのが重要になってくると思う。また、現在の二代表制のもと、ともするとポピュリズム的な傾向が、まま見られる点は、制度の問題としてもいささか懸念されるところだと思っている。その点でも、新しい公共という考えや、地域コミュニティを支える市民社会的役割が、重要となるのではと感じている。
- ・地域主権の実現の現実には、責任ある市民をどう育成するか、教育の中身から手を入れる必要があるのではないのでしょうか。
- ・今回少し、道州制の話もでたが、基礎自治体の望ましい今後の姿をどう考えたらよいのか。都道府県には、人口差があってもいいが、基礎自



大宮ソニックシティ・小ホールにて

治体のバランスは、何を基本にすべきか？

- ・名古屋市長などの動きがある中でのシンポジウムで、大変参考になった。
- ・地方議員としての今後の問題点など、非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・全く知らない知識が多々あり、地域主権を実現するに色々とやるべきことがある。
- ・小林先生のご説明が分りやすい。例示して説明される事が良かった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございます。またこのような企画をお願いします。
- ・大変勉強になりました。次回はもっと長い時間をお願いします。
- ・議員立法の話は興味深かった。ぜひ実行したい。
- ・とても勉強になりました。大変良い企画だったと思います。
- ・地方議会について考える機会になりました。
- ・大変先進的な考え方が参考になりました。
- ・もう少し早い時間帯に始めていただきたい。無料でありがたい。
- ・大変良い企画だと思いました。
- ・今後も開催してほしい。
- ・大いに参考になった。
- ・大変参考になりました。
- ・ありがとうございました。